

# IPSJ-SIGCH 第 100 回研究発表会に寄せて

鈴木卓治<sup>†1</sup>

第 100 回を迎えた情報処理学会人文科学とコンピュータ（じんもんこん）研究会の研究発表会を祝福するとともに、今後の研究会活動への期待を述べる。

## Celebration of the 100<sup>th</sup> IPSJ-SIGCH meeting

TAKUZI SUZUKI<sup>†1</sup>

Celebration of the 100<sup>th</sup> IPSJ-SIGCH meeting and my hope for research activities of SIGCH are described in this paper.

### 1. はじめに

情報処理学会人文科学とコンピュータ（じんもんこん）研究会第 100 回研究発表会の開催をお祝い申し上げます。2007～2008 年度に 9 代目の主査を務めたご縁で今回本稿を書かせていただくこととなりました。

### 2. じんもんこんとの係わり

じんもんこん研究会との係わりは、1994 年に国立歴史民俗博物館に助手として採用され、上司の照井武彦教授（当時）にご紹介をいただいたのがきっかけです。1995 年の第 26 回研究会で「歴博にインターネットがやってきた」というタイトルで発表させていただいた[1]のがデビュー戦でした。

1995 年度から 4 年間行われた、科学研究費重点領域研究「人文科学とコンピュータ」の公募研究に採用していただき、そのときに及川先生を始めとするじんもんこん研究会の創立メンバー、アクティブメンバーの方々を知りあう機会を得ました。

表 1 は、じんもんこん研究会に関連して任ぜられた役職の一覧です。連絡委員というのは現在の運営委員の前身にあたるものですが、当時は任期 2 年ということではなかったようで、いつ任期が終了したかは不明です。1999 年から始まったじんもんこんシンポジウムでは、プログラム委員会や実行委員会の委員を何度か仰せつかりました。

この研究会で自分がどれくらい研究発表しているかを調べてみたら、じんもんこんシンポジウムのほうでは 9 件ありましたが、研究発表会の方では 95 年の 1 件だけでした。自分の研究活動を活性化させるための研究会参加ですから、これはなんとか改善しなければと改めて反省しているところです。

表 1 研究会に関連する役職等

年/年度	職名
1997～?	連絡委員
1999	「じんもんこん 1999」プログラム委員
2000	「じんもんこん 2000」プログラム委員
2003	「じんもんこん 2003」実行委員
2004	「じんもんこん 2004」プログラム委員
2005～2006	幹事
2005	「じんもんこん 2005」実行委員
2006	「じんもんこん 2006」プログラム委員
2007～2008	主査
2007	「じんもんこん 2007」実行委員会委員
2008	「じんもんこん 2008」実行委員会委員
2009～2010	幹事
2009	「じんもんこん 2009」プログラム委員
2010	「じんもんこん 2010」プログラム委員
2011～2012	運営委員
2011	「じんもんこん 2011」プログラム委員長

### 3. 主査として出来たこと・出来なかったこと

#### 3.1 台湾での研究発表会開催

表 2 は、私が主査を仰せつかった期間に開催した研究発表会の開催日と会場の一覧です。この中で思い出深いのは、第 76 回の台湾での研究発表会の開催です。前任の相田先生の時代に、全国 47 都道府県で研究発表会を開催する、という目標が達成されました[2]ので、つぎは海外での研究発表会の開催をめざしました。小島正美先生（東北工業大学；当時）のご紹介で、台湾・東南科技大学の劉振源先生をご紹介いただき、電子メールで連絡を取りながら準備をすすめました。当時の研究発表会の開催趣旨説明（自分で書いたのですが）を読むと、ずいぶん意気込んでいるなあと感じます。

これまではもっぱら日本国内で研究発表会を開催してまいりましたが、国際的な研究活動の広がり、とりわけ日本にとっては、台湾をはじめ東アジアや南アジアの国々との相互交流が大きな意味をもつようになってきています。そこでわれわれは、年4回の研究発表会のうちの1回を日本国外で開催することを目標として準備をすすめてきました。今回の研究発表会は、台湾・台北の東南科技大学のご協力を得て、大学が主催する国際シンポジウム「人文科学とコンピュータ科学」における台日共同セッションとして実施します。当研究会初の海外開催研究会となります。

台湾の研究発表会は成功裏に終了した(写真1)のですが、しかし、2008年度には海外開催研究会は開催しませんでした。査読を行う研究集会でなければ海外での研究発表が許可されない研究機関が多い、というご指摘を受け、研究発表会の趣旨に鑑みて、より多くの人に参加しやすい開催形態であるべきだと反省してのことでした。

表2 主査在任中に開催した研究発表会

No.	開催日	会場
74	2007-05-25	龍谷大学瀬田学舎(滋賀県大津市)
75	2007-07-27	神奈川工科大学(神奈川県厚木市)
76	2007-09-27	東南科技大学(台湾・台北県)
77	2008-01-25	東洋大学白山校舎(東京都文京区)
78	2008-05-23	立命館大学(京都市)
79	2008-07-25	金沢文庫(横浜市)
80	2008-10-18	たざわこ芸術村(秋田県仙北市)
81	2009-01-23	キャンパスプラザ京都(京都市)



写真1 台湾で開催した研究発表会

### 3.2 研究会 Web サイトの移転

自分の任期中に、研究会の Web サイトと会員向け同報通信のメーリングリストを移転しました。それまでは、幹事をされていた先生方の所属機関のコンピュータを使用していましたが、ちょうどレンタルサーバが比較的安価に借りられる状況になってきたことと、その時々の主査・幹事が管理をする体制に移行するべきであるという考えから、広報担当幹事になっていただいた永崎研宣先生(山口県立大学;当時)にぜひお骨折りをいただき、jinmoncom.jp

ドメインを取得して、移転作業を行いました。

### 3.3 小特集「アーカイブズとデジタル技術の未来を考える」の開催

第77回と第79回の研究発表会において、小特集と称して、アーカイブズ学の視点からデジタル技術をどうとらえどう役立てていくか、いわゆるデジタルアーカイブというムーブメントに対してどう向かい合っていくかをテーマとして、発表とパネルディスカッションとから構成するセッションを設けました。幹事に五島敏芳(国文学研究資料館;当時)先生に入っていたいたのは、この特集の開催を念頭に置いてのことでした。

第77回では牟田昌平(国立公文書館専門官室;当時)さんに、第79回では五島先生にご発表をいただきました。その後牟田さんは2009年9月に急逝され、ずいぶん惜しい方を亡くしたとショックを受けると同時に、この小特集が牟田さんの先進的なお考えと実践を直接お伺いすることのできた、ずいぶん貴重な機会であったのだとあらためて認識することとなりました。一期一会、という言葉を実感した出来事でありました。

### 4. 今後のじんもんこんについて

私は「博物館情報システム学」を標榜して、博物館における研究・展示・広報を支援するシステムの研究に日々取り組んでいます。じんもんこん2004の発表「錦絵資料の測色画像データベースの構築と色彩分析の試み」[3]で、平成17年度情報処理学会山下記念研究賞(人文科学とコンピュータ研究会推薦)をいただいたことは、いまでも大きな励みになっています。非常に幅広い分野の方に自分の研究を知ってもらえるこの研究会は、これからも長く存続してほしいと願います。情報工学を学んだ者の自己反省として、目先の業績にとらわれるあまり、自らの研究が、コミュニティ内の評価ばかりを追いかけて、実用との結びつきや哲学・価値判断をとまなわない「空論」に陥らないようにするためにも、じんもんこん研究会のような存在は不可欠であると感じます。

### 参考文献

- 1) 鈴木卓治: 歴博にインターネットがやってきた~つながった・使ってみた・どう広げよう? ~, 情報処理学会研究報告, 95-CH-26, pp.25-30(1995).
- 2) 及川昭文(編): 情報処理学会「人文科学とコンピュータ研究会」全国制覇記念誌, 2007-1-26 (限定100部発行).
- 3) 鈴木卓治, 安達文夫, 大久保純一, 小林光夫: 錦絵資料の測色画像データベースの構築と色彩分析の試み, 人文科学とコンピュータシンポジウム(じんもんこん2004) 論文集, IPSJ Symposium Series, Vol.2004, No.17, pp.75-82(2004-12).